

# 反戦・反核訴えた陶芸家

## 「北一明記念館」開設

### 飯田、故人の生家改修し

飯田市出身の陶芸家で、故をテーマにした個展を開いて米国などを巡回し、反戦と核兵器廃絶を訴えた故郷・長崎への原爆投下や米スリーマイル島原発の事



北一明氏の作品を展示する記念館は、同氏の生家に設けられた。北一明氏が残したデスマスクなど記念館の展示作品を説明する田中義教さん(右) 川いづれも飯田市江戸町4丁目



北一明氏

北一明(本名・下平昭一)氏の記念館が10月、同市の生家に設けられた。茶わんやデスマスクなど約50点を展示し、故人が警鐘を鳴らし続けた核の脅威と平和への願いを後世に伝えようとしている。

北氏は1934年、江戸時代の武家屋敷の面影を残す同市の家で生まれた。法政大を卒業して進んだ同大大学院を中退。焼き物を独学した。東京都中野区の工房を拠点に、12、13世紀の中国・南宋時代につくられ

たとされる「曜変天目茶碗」を再現するなど、作品づくりに没頭し、色彩変化の原理を究めた。

80、90年代、国内外で高く評価されるようになった。きっかけは、ユダヤ人がナチス・ドイツに虐殺されたポーランドのアウシュビッツ強制収容所の土や、広島・長崎の被爆焼土を使い、犠牲者の痛みを表現したデスマスクの数々だった。

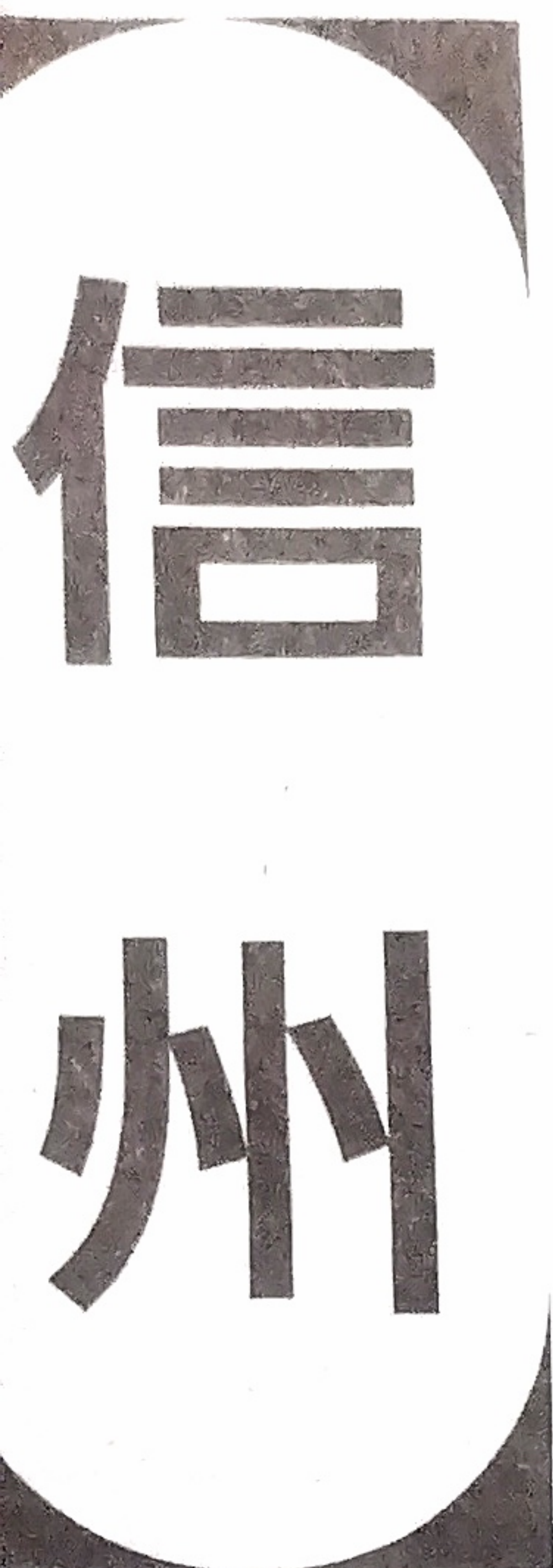
「ノーモア・ヒロシマ・ナガサキ」や「告発―閃光」といった一連の作品を通して反戦、反核を訴える活動が、世界の文化人の胸を打った。作品の一部は広島平和記念資料館や大英博物館に収蔵された。

北氏は2012年、同市江戸町に今も残る生家で亡くなったが、生前親交があ

った学者や法政大の関係者が、その遺志を後世に伝えようと作品展示のための施設整備を模索。法政大に寄贈された作品などの整理を進め、遺族から借り受けた生家を改修し、記念館の開設にたどりついた。

10月24日にあった開設式には田中優子・前法政大総長や佐藤健・飯田市長も出席。日本中国友好協会副会長で、記念館開設の準備会共同代表の田中義教さん(78)は「戦争犠牲者の苦しみと核廃絶の願いを、芸術を通して世界に発信し続けた北さんの情熱と業績を今こそ多くの人に知ってもらいたい」と話す。記念館は入館無料だが、開館は不定期。問い合わせは田中さん(080・6528・2504)へ。(佐藤仁彦)

●ひき署は、署を道路交と自動(過失運し、3口署にと時10分で軽乗の軽乗乗の男わせたる。高傷とい●住野町小宅が今遺体がると、防に鎮火、中村、ない、出火



長野総局 026・223・7000  
長野市七瀬4-5 fax 026・223・7331  
mail nagano@asahi.com

公本支局 0263・32・3473

デジタル版ニュースはこちら →  
購読・配達のご用は 0120・33・0843 (7~21時)

### きょうの天気

6~12時 降水確率 12~18時

長野	0	諏訪	0
軽井沢	30	南南東	30
松本	20	飯田	10
諏訪	10		
飯田	10		

湿度 50%

北	最高 23度	最低 11度
長野	23度	8度
軽井沢	23度	9度
松本	20度	8度
諏訪	24度	8度

南南西	南	諏訪	飯田
-----	---	----	----